お年寄りの介護を通して家族の温もりとは何かを描く
感動の人権啓発学習教材用ドラマ――！

教育映像祭優秀作品賞受賞

文部科学省選定
優秀映画鑑賞会推薦
青少年育成国民会議推薦

ぬくもりの彩（いろ）

製作　八頭司　享

伊吹友木子
塚本加成子
福家　愛香
熊渕　卓
谷　広子
青山　一也
小林すすむ
田口　計

監督　原田　隆司

企画　滋賀県
制作　共和教育映画社

教育映像祭優秀作品賞受賞

文部科学省選定

ぬくもりの彩（いろ）

優秀映画鑑賞会推薦
青少年育成国民会議推薦

監督■原田　隆司

伊吹友木子
塚本加成子
福家　愛香
熊渕　卓
谷　広子
青山　一也
小林すすむ
田口　計

製作■八頭司　享

プロデューサー/八頭司重信　脚本/岡橋かおり　撮影/林　健作　照明/山北　一祝　録音/林　基継　VE/山本　秀一　記録/岡崎　洋子　製作デスク/竹田　治

この作品は、突然、障害を持った高齢者との同居を余儀なくされた家族が、同和地区に住む青年との出会いをきっかけに、それぞれが同和地区に対する差別意識の誤りに気づき、人を思いやる心や家族のぬくもりを取り戻していく「心の変化」を描いた作品である。

● あらすじ ●

八重子は、脳梗塞の後遺症で身体が不自由になったため、晴信（息子）の家に引き取られることになった。晴信の妻、敏江は義母と同居することに不服だが、八重子の家を処分したお金で家計を助けてもらえるということで渋々納得する。

しかし、唯一の財産である実家の権利が悪質業者により他人に渡っていたことを知った敏江は、八重子につらくあたるようになる。そんな八重子に孫の小百合（姉）は、一馬（弟）と違い同情的であった。

ある日曜日の朝、いらいらが募っている敏江は、八重子を外へ連れ出すように小百合と一馬に言いつける。近くの公園を訪れた3人だったが、小百合と一馬が目をはなしたすきに車椅子が坂道を動き出し、バランスを崩して八重子は転倒する。どう対処していいのか戸惑う二人。そこに運良く通りかかった茶髪の青年・稔が手際よく救急車を呼び、八重子は入院する。

翌日、お礼に行った敏江と小百合は、身体の不自由な祖父良一をいたわりながらも、友だちのように接している稔の姿を見て、家族のぬくもりを感じた。帰り道、小百合は「うちでも、家族でもっとおばあちゃんに優しくしてあげんと…」と敏江に意見する。

稔に好感をもっていた敏江だったが、友人から稔の住んでいる所が同和地区だと聞かされて戸惑い、小百合に「もう、稔には関わらないように」と言う。小百合は、敏江の間違った考え方を批判し、八重子にそのことを話すが、八重子もまた、小百合の言葉に応えることできず顔を背ける。

八重子の入院している病院に、良一はリハビリに通っていた。通院のたびに見舞い、励ましてくれる稔と良一に、八重子は、本当の優しさとは何なのかと自分自身に問いかけ、自分の偏見に気づいていく。そして、稔に自分の差別意識を告白する。稔は、「でも、おばあちゃんはよそよそしいままじゃなかった。だから、こうして僕と仲良く話をしている。相手の立場にたてば優しく温かくできる。」と話す。

一方、素直に稔に感謝し、敏江の誤りを指摘する小百合の姿から、敏江は自分の差別意識に気づき、八重子への接し方も考えなおす。そして、家族みんなで八重子を支えていかなければならないことに気づいていく。

やがて、八重子は退院し、湖畔に良一と八重子を見守る二つの家族があった。

● 学習の視点 ●

（1）高齢者をめぐるさまざまな問題について考え、高齢者と共に生きていくために、私たち一人ひとりに何ができるか考えてみましょう。

（2）同和地区に対する差別意識はまだまだ残っています。差別を温存し、助長するものは何か考えてみましょう。

（3）すべての人の人権が尊重され、差別のない明るい社会を築くために私たちができることは何か、考えてみましょう。

販売価格Ⓥ¥63,000（税込）日本語字幕版あり　上映時間36分

共和教育映画社

〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路6-4-111 延原倉庫淡路物流センター
TEL 06-6322-1800　FAX 06-6322-2255
URL http://www.kyowafilm.com　E-mail avl@kyowafilm.com